

## 令和4年度「日田市農業振興ビジョン」推進委員会議事録

R4.11.17(木) 10:00~

庁議室

1. 開会（事務局）
2. 課長あいさつ（農業振興課長）
3. 委嘱状交付（市長代理：農林振興部長）  
各委員へ委嘱状の交付
4. 委員・事務局紹介  
事務局より資料Ⅰを用いて推進委員会設置要綱を説明  
名簿順に自己紹介  
<資料>
  - ・次第
  - ・資料Ⅰ（日田市農業振興ビジョン推進委員会設置要綱）
  - ・資料Ⅱ（名簿）
  - ・資料Ⅲ（「日田市農業振興ビジョン」令和3年度取組内容）
5. 委員長・副委員長選出  
委員長 石井 照久委員  
副委員長 原田 文利委員
6. 議題
  - (1) 主要事業の各施策への反映状況
  - (2) 品目振興の令和3年度実績値  
(事務局)  
資料Ⅲにて説明
    - 主要事業の各施策への反映状況
    - 各重点施策の進捗状況
    - 品目別振興について

## 意見集約

### 【果樹・野菜・花卉・米等の安定生産と生産拡大について（資料3の3ページ）】

- 1) ピーマンについては今年から、玖珠町と日田市で部会を形成することで生産拡大を図っています。今年は新しい選果場を活用しての生産で、生産者にバラつきはあるが、出荷量は伸びています。しかし、ビジョンに掲げる水準までには至っていない状況です。

### 【地域の特性をいかした作物の推進について（資料3の4ページ）】

- 2) ミニハウス導入事業などの補助事業は、毎年、農協管内で枠を作って使わせていただくとありがたい。また、今年要望しても、令和6年度以降にしか実施できないという状況もあるようなので、年度単位で実施できるようにお願いしたい。

### 【足腰の強い畜産業の振興について（資料3の5ページ）】

- 3) 現状は畜産業全体で原材料が高騰する一方で子牛価格は下落しており、非常に厳しい状態です。酪農は、ほぼ原材料は輸入飼料に頼ってますので、飼料高騰対策ということで、市から今年度支援いただいております。頭数については、増えていくということは考えづらいが、引き続き畜産の振興を図っていきたいと思います。

### 【生産部門との密接な連携によるマーケットインに向けた取組の推進 などについて（資料3の6～7ページ）】

- 4) 大分県は収量では勝負しづらいので、日田地域の特徴的な気候をいかした高品質な作物の観点からPRしていくことは方針として正解だと思っています。

最終的な目標は、日田市全体で農産物のイメージアップを図ることで農家の経営が安定することだと思います。スイカに関しては、部会や組織の垣根を超えて、「日田のスイカ」として勝負することも大事だという話が挙がっており、必ず実現できるようにしたいと思っています。実現したら、かなり大きい出来事になると思っています。生産者としては士気が高い状態にあるので継続した支援をお願いします。

### 【担い手の明確化と農地の集約について（資料3の8ページ）】

- 5) 農地の集積の関係ですが、後継者を含めて自作できない農地が増えており、集積がなかなか達成できていない状況です。そのような中、市の支援として、優良農地を見つけ、農地中間管理制度を農業者に周知しながら、集積を進めていくべきだと思います。

集落営農組織については、個々の組織の中でも共同作業ができていないという状況も見られるので、集落を超えた広域での連携が必要だと思います。もしくは雇用型で展開するやり方もあるが、高収益作物生産が必要となってくるので、市としても導入作物の支援の考え方やアプローチがないと集落営農組織の育成は難しいと思います。

【新規就農者や農業後継者の確保・育成について（資料3の9ページ）】

- 6) 新規就農者育成の一例として、えのきFSについては、技術の習得はもとより、仕入れる原木の状態が経営に直撃してくると思います。単価も不安定なので、研修生の就農時に、どう経営をサポートできるかを常に考えています。技術に関しては、周りの方のサポートがあるので、特に問題は無いと思います。工場に関しては、設備の機材が何十年も経っている所を居抜きで借りて就農する状況なので、機材のトラブルが起きた時のことなども考えてサポートいただければと思います。

また、後継者組織の取組としてポッドキャスト配信を行っています。これを行う目的は、メンバーの中に親元就農の方が多く、親に直接意見を言うのは、はばかれる問題が多々あって、それをずっと一人で抱えるのではなく、外向きに話すことで、その問題を解決する事もあり、色んな知識も共有できます。その中でアウトプット、インプットを繰り返して、切磋琢磨できるメンバーで収録しています。今後も、より良いものを作っていくつもりなので、見ていただければと思います。

【生産基盤として有効な農地確保や農業水利施設の整備・更新について（資料3の10ページ）】

- 7) 須ノ原土地改良区では、台地を造成して40数年が経過し、パイプラインの漏水等に対処するため、更新作業に取り組んでいます。

地元負担については、全国的な負担割合はおおよそ15%ですが、平成26年度に知事に要望し、大分県は水路で5%、ため池で1%にまで軽減されました。その後も要望を続け、水路で5%を3%に、ため池で1%から0に軽減した負担割合で令和4年度から実行しており、水利施設を改修する多くの地区では、大変助かっている状況です。

私達も、土地改良区の立場として、農家の状況が厳しい中、少しでも負担を軽減しなければならないという事で、常に話し合いをしています。

【安心・安全な環境保全型農業の推進について（資料3の9ページ）】

- 8) 堆肥の投入について、WCSを生産している圃場では、収量確保の為に毎年、散布しています。私達は、散布機を持っているので、ある程度投入はできるのですが、現場では農閑期がなく、次の作物までの狭間がないわけですから、その中で大量に投入というのが、現実的にできないという問題があります。

堆肥の有効性というのは、農家はわかっています。良質な堆肥を供給してもらいたい、化学肥料を低減して堆肥を購入したいというのは、耕種農家全ての思いだと思います。日田は畜産で堆肥を生み出す地域ですから、地域のメリットを生かして、今後の施策展開の中で、化学肥料メーカーとも連携しながら特殊堆肥を作るなど有効性を上げ、関係機関を巻き込んで畜産振興および農業振興に向けて、今後も進めていくべき内容だと思います。

- 9) 私は堆肥の製造と散布に専念しているのですが、化学肥料が高騰している中で、少しでも堆肥を散布して、足りない分を化学肥料で補う状況にしようという事で、今年から若干多めに散布しています。そこまでしないと、耕種農家は時間がありません。オペレーター組織があって、散布作業を担うようになれば、推進できるかもしれません。

【その他 全体を通して】

- 10) 大山町農協鎌手新支所とミニストップが8月にオープンしました。ミニストップの中に、小さな木の花ガルテンを開設しており、順調に産直野菜の売上も伸びています。将来的には、福岡方面の店舗にも、ガルテンを展開する構想もあり、今まで以上に産直野菜の需要が伸びるのではないかと考えています。

また、大山町に限ったことではないですが、今後は中小規模の農家がどうなっていくかという事を懸念しています。5年・10年先を見据えて、今、どうすればいいかを真剣に考えているところです。その一つとして、農協で、できるだけ遊休地をまとめて、新規就農者がいつでも入植できるような体制を作っていく取組を考えています。実質化した人・農地プランと絡めながら、できるだけ町内の農地を荒らさないようにしていきたいと思っています。

- 11) 農商工の関係ですが、県としても福岡に事務所を持っておりますので、福岡マーケットでの販売強化をどの様にしていくかということなどについて有効活用していただければと思います。

担い手の関係については、日田は就農希望者の相談も多く、移住先としても魅力のある地域だと考えています。ファーマーズスクール等も含めて、今後、新規就農者の確保の為に県としても努力していきたいと思っています。

- 12) 最近企業参入について日田へ問い合わせが増えてきています。その中で、甘しょの大規模栽培の案件も出てきています。大分県はまだ、元腐れ病が出ていないので、参入を考えている企業からの相談が増える傾向にあるのかなと思います。病気が全国的に広まったのは苗の移動だと言われておりますので、県内への侵入を防止するという点でも、甘しょ生産者を組織化して、苗の入手などを管理する組織が必要なのではないかと思っています。現状の生産者も含めて、参入企業等も一緒になって、参入防止対策を、考えていかなければならないと思います。

- 13) 水田畑地化を主に進めていますが、担い手がないという課題があります。日田にこういう農地があるという事を広く情報発信していく事で、新たな担い手確保に繋げていきたいと思っています。

- 14) 須ノ原改良区にもスイカの新規就農に意欲を燃やしている方がいます。改良区の中には花木業者がいるのですが、現在、花木業者と野菜農家のゾーニングをしようという事で、スイカ栽培ができる区画面積を集約できるように計画しています。

そのような中で今後、スイカのロットを大きくする為には、担い手が増えないと収量が足りない。市場からの要望も多いという事で、やる気のある人を新規就農で呼び込みたいので、改良区としても農業委員としても、農地を確保してあげなければならない。今後は、県と市、農業委員、改良区が一緒になって新規就農者を受け入れられるような体制を取っていかなければならないと思います。

- 15) 現在、大肥地区の圃場整備を進めています。整備した後、集落営農組織もそこで営農を行う計画ですが、企業参入の候補地としても募集をしている状況です。

集落営農組織としても、米に代わる高収益作物として、甘しょや白ネギを作っていますが、担い手不足でなかなか収量が上がらない。単価が良いから、作れば儲かるという事で、新規就農者などに声をかけているが、営農指導の面から、十分なサポートができていない状況です。私たちはまず、量を作りたいので、日田地域で取り組む意欲のある方が出てきてもらいたいという思いで、我々も栽培を行っています。

色々な関係者が一体となって取り組み、行政支援で儲けが出るまで、指導していき、その後は、自分の方法でできるようにする。これが充実し、コスト的な支援も受けながら、産地作りをしてもらいたいと思います。

- 16) 日田農研に、ぶどうで新規就農を希望する方が入りました。その方の就農については、市と県の担当者と今後の方向性について話し、順調に進んでいると聞いています。ただ、行政と新規就農希望者だけで話をするのは、あまり良くないのではと思います。経営指標だけでは測れないところが農業はかなり大きく、これについては私達、生産者が入れば話ができます。日田には青年農業組織があり、良いメンバーがいますので、積極的に私達に話をしてもらえれば、色々な人達も紹介できます。協力したいと思いますのでお声掛けをお願いします。

- 17) 今日、皆様の話を聞いて、嬉しく、やる気が湧いてくるなという思いが生まれました。その一つは、スイカについて、組織など関係なく、皆で日田のものを売っていきこうという話ができているということです。若い世代になって改めて、一緒に統一のものを売っていきこうという雰囲気が出てきた事は、農業振興に携わる者として、道筋が見えてきたなと感じました。

また、ポットキャストの関係ですが、生産者が自分たちの事を語りながら、周りの人もそれに引き込まれていくという動きがあることや、新規就農者の相談対応についても、自分達の話がたくさんできるので活用して下さいという意見が出たのは、非常に嬉

しい限りです。

農地を守っていくことに関しては、集落営農組織や農地の受け手への何らかのアプローチをしないと優良農地が減っていくという話題もありました。国の水田畑地化に向けた支援の中では、畑作物の定着促進として、高収益作物に加えて、麦・大豆・飼料作物等も交付金の支援対象となる動きもあるようですので、動向を見ながら皆様にご紹介していきたいと思います。

堆肥の関係については、個人でも堆肥散布を担う方がいらっしゃるのであれば、そういう方々をネットワーク化できるような仕組みを作っていく事が重要だと思います。

営農指導については、農協、県、生産者の皆様のご協力を頂きながら、少しでも日田の品目の販売額が上がっていくような取組に御協力をいただきながら頑張っていきたいと思っています。

## 7. その他

特になし

## 8. 閉会（事務局）